

山口病総第 58 号
平成 24 年 3 月 13 日

公益財団法人 笹川記念保健協力財団
理 事 長 紀 伊 國 献 三 殿

施 設 名 総合病院 山口赤十字病院

代 表 者 名 西 史 夫



平成 23 年度 ホスピス緩和ケアナース養成研究事業助成
に 係 る 報 告 書 の 提 出 に つ い て

標記について、下記のとおり報告いたします。

記

1 研究・研修事業 平成 23 年度ホスピス緩和ケアナース養成研究事業

2 期 間 平成 23 年 4 月 1 日 ～ 平成 24 年 3 月 31 日

3 報 告 書

I 事業の目的・方法

II 内容・実施経過

III 成果

IV 収支報告

①助成金の主な用途(人件費以外は領収書等の証憑書類を添付)

②当該助成金に関わる部分の決算書「写」

V 添付書類

①山口赤十字病院ホスピス緩和ケアナース研修プログラム

ナースのためのホスピス緩和ケア研修事業 報告書

平成 24 年 3 月 13 日

総合病院 山口赤十字病院

I. 事業の目的・方法

1. 事業の目的

- 1) 緩和ケア(ホスピスケア)の現場を体験することによって、緩和ケア(ホスピスケア)にかかわる看護師に必要な実践能力を身につける。
- 2) 自施設(個人)の課題に沿って必要な情報を得て今後の看護実践に役立てる。

2. 事業の方法

- 1) 研修場所: 山口赤十字病院 緩和ケア病棟および訪問看護ステーション

- 2) 研修受け入れ期間及び受け入れ人数: 8 名

平成 23 年 7 月 11 日～平成 24 年 1 月 27 日

上期(清瀬): 平成 23 年 7 月 11 日～同年 8 月 26 日 研修生 4 名

下期(神戸): 平成 23 年 11 月 7 日～平成 24 年 1 月 27 日 研修生 4 名

- 3) 研修実施方法:

- (1) 研修受け入れ窓口は看護部とし、研修申し込み、緩和ケア病棟指導者との調整、宿泊等の受け入れを行う。
- (2) 山口赤十字病院緩和ケア病棟に研修担当看護師を配置し、その指導・調整のもと緩和ケア(ホスピスケア)に必要な知識・技術習得のために研修を実施する。
- (3) 山口赤十字病院緩和ケア研修プログラムを検討し、研修生の研修目標との調整をすることにより研修効果が高まるようにする。
- (4) 研修中は指導者による面接、終了時報告会、アンケートにより研修生の反応・意見、目標達成状況を把握する。

II. 内容・実施経過

1. 研修内容

研修生が自己の目的・目標が達成できるように、研修プログラムに沿って研修を進めた。

- 1) 研修目標

- (1) 緩和ケア(ホスピスケア)に必要な知識・技術・態度を習得できる。
- (2) チームアプローチの実際を学び、チームの中での看護師の役割を考えることができる。
- (3) 在宅ケアを支えるシステムについて知ることができる。
- (4) 自施設における看護ケアの実践のために必要な具体的な対策を考えることができる。

- 2) 研修担当者

病棟研修責任者: 小野芳子

病棟研修担当者: 金子美幸、原淳子、栗田響香、山村綾子

看護部研修担当者: 内田久美子[副看護部長]

研修指導者: 日々の担当看護師

- 3) 研修プログラム(添付書類「緩和ケア病棟研修プログラム」)

2. 研修内容の経過

1) 研修の経過

(1) 看護部でのオリエンテーション(研修初日)

① 病院全体のオリエンテーション

(病院の理念・組織、看護部の理念・組織、院内教育 等)

② 病院内関連部署の案内をする

(2) 病棟での研修

① オリエンテーションの実施をする

- ・病棟内オリエンテーションを実施する
- ・関係部署に挨拶、紹介をする

〈オリエンテーションの内容〉

山口赤十字病院緩和ケア病棟の理念、基本方針

病棟構造

看護業務について

記録方法

オピオイドの取り扱い

研修生看護実務実施基準 等

② 研修の調整をする

研修の目的・目標の確認をし、各個人の研修の目標が達成できるように研修スケジュールを調整する。

当病棟の研修プログラムに沿った3週間スケジュール表を作成し、研修生に提示しスケジュールの調整をする。

③ 患者さんへ直接看護ケアの実施をする

④ 病院内の緩和ケアにかかわる専門職(医師、医療ソーシャルワーカー、栄養士、薬剤師、音楽療法士、がん看護専門看護師、緩和ケア認定看護師など)からのレクチャー(希望時)を受ける

⑤ 訪問看護の経験を訪問看護師とともに行動をし、体験する(1日)

⑥ ボランティアを体験する(半日を2回)

⑦ 緩和ケアチームの看護師から話を聞く

⑧ 院内の認定看護師から活動内容の話を聞く(希望時)

⑨ 看護カンファレンス、チームカンファレンスへ参加する

⑩ 病院内・病棟内勉強会へ参加をする(希望時)

⑪ 各行事への参加をする(希望時)

⑫ 週末毎に面接を行い、研修内容の状況の確認と今後の課題を明確にする

⑬ 第3週の木曜日にカンファレンスの時間で3分間スピーチをする

スピーチの内容は、派遣施設のこと、実習で気がついたことや感想などとする

⑭研修最終日に報告会を実施する

出席者：研修生、病棟研修責任者（病棟師長または係長）、病棟研修担当看護師、
副看護部長または看護部長、教育担当看護師長

時間：30 分程度

研修報告内容：

- ・自己の目標の達成度と今後の課題
- ・自施設で生かせること
- ・当病院への要望、病棟に対する意見・アドバイスなど

2) アンケートの実施

財団のアンケートに加え以下の内容を追加しアンケートを行った。

(1) 研修の内容の理解度

緩和ケアの理念、症状マネジメント、家族ケア、チームアプローチ、在宅ホスピス

(2) 研修形態

研修前の対応、寮生活、研修設備・環境

(3) その他の意見・感想・要望

(4) 「ホスピスケアとは何か？自分の言葉で表現して下さい」

Ⅲ. 成果

1. 研修の成果

上期、下期をとおして研修生は研修を修了した。

当院の研修目標に沿って研修生のアンケートをもとに成果として報告する。

研修生のアンケート結果

アンケート対象者 上期(清瀬)4名

下期(神戸)4名

アンケート回収率 100%(有効回答率 100%)

研修生の概要

平均年齢:37.8 歳

看護師経験年数の平均:14.4 年

職位:主任が2名、スタッフ看護師が6名であった

当院の研修目標

1. 緩和ケア(ホスピスケア)に必要な知識・技術・態度を習得できる
2. チームアプローチの実際を学び、チームの中での看護師の役割を考えることができる
3. 在宅ケアを支えるシステムについて知ることができる
4. 自施設におけるケアの実践のために必要な具体的な対策を考えることができる

1) アンケート結果1: 個人目標の達成度について

研修生の主な個人目標をあげると以下の内容であった。

- ・ 看護実践に関するもの
- ・ 患者とその家族の抱える苦痛の現状を知る
- ・ 問題解決への取り組み方を知る
- ・ 症状マネジメントの実際を学ぶ
- ・ トータルペインに配慮したケアの実際を知る
- ・ 患者とその家族とのコミュニケーション方法、ケアの進め方の実際を学ぶ
- ・ 患者の意思決定過程における看護援助を学ぶ
- ・ セデーション導入時のインフォームド・コンセントの実際を見学し、患者とその家族のかかり方を学ぶ
- ・ 看護ケアの工夫について知る
- ・ 病棟カンファレンスの実際を知り、カンファレンスと日々のケアのつながりについて知る
- ・ デスカンファレンスの実際を知る
- ・ 在宅療養への支援・レスパイト入院、訪問看護、在宅の看取りなど切れ目のない緩和ケアの取り組みを知る
- ・ 緩和ケア病棟で直面している倫理的問題やその対応について知る
- ・ 訪問看護ステーションの在宅緩和ケアの看護を学ぶ
- ・ 訪問看護の在宅ケアにおける看護に工夫について知る

チーム医療に関するもの

- ・ 緩和ケアにおける看護師の役割を理解する
- ・ 緩和ケアにおけるメンバーシップを学ぶ
- ・ 緩和ケアにおける多職種との連携・かかわりを知る
- ・ 緩和ケアチームの病棟ラウンド・カンファレンス・院内外の研修会や勉強会等の活動を知る
- ・ ボランティア活動内容、ボランティア教育がどのようにされているか知る

病棟管理に関するもの

- ・ 緩和ケア病棟の特徴、役割を知る
- ・ 病院内で緩和ケア病棟がどのような役割を果たしているかを理解する
- ・ 緩和ケアの教育プログラム、スタッフ教育のシステムについて知る
- ・ スタッフケア、ストレスマネジメントについて知る

その他

- ・ 情報共有の方法を知る
- ・ どのような記録がされているか、工夫や方法を知る
- ・ がん診療連携拠点病院としての役割、地域住民へのはたらきかけの内容を学ぶ
- ・ 総合病院の中で緩和ケア病棟や緩和ケアチームがどのような役割を果たしているのか、連携をとっているのかを理解する
- ・ 多施設の緩和ケアを見学し、新たな視点での患者の看護のあり方を見出す
- ・ 専門・認定看護師のチーム内での役割を知る

これらの研修生の個人目標・課題に対しての達成度を、財団のアンケートをもとに、評価基準を《a:十分達成＝4ポイント、b:達成＝3ポイント、c:まあまあ＝2ポイント、d:不十分＝1ポイントとして》点数化し評価した。

表1. 個人目標・課題に対しての個人の評価の平均点と人数

ポイント	3.5	3.4	3.2	3.0	2.8	平均
人数	1	1	2	3	1	3.1

結果と考察

平均値は 3.1 ポイントで、目標・課題は達成できたと考える。

「達成度a:十分達成された目標評価」は8項目、「達成度b:達成された目標評価」は 30 項目、「達成度c:まあまあと評価された目標評価」および「達成度d:不十分と評価されている項目」は 1 項目であった。全体的に目標・課題達成評価は高く、達成できたと考えられる。cおよびd評価の理由は、該当患者がいなかったためであった。

2) アンケート結果2:研修内容の理解度について

表2. 研修内容の理解度

	項 目	平均値
1	緩和ケアの理念	4.9
2	症状マネジメント	4.5
3	家族ケア	4.6
4	チームアプローチ	4.9
5	在宅ホスピス	3.9
6	自己の課題	4.1
平 均		4.5

5段階評価(5:よく理解ができた 1:理解できない)

結果と考察

理解度の平均は、4.5 と高い結果であった。

しかし、在宅ホスピスケアに関しては 3.9 と低い結果であった。当院の訪問看護の現状が、在宅緩和ケアを対象にした利用者が少ないことも評価が低くなった原因と考える。

3) アンケート結果3:感想・今後の課題などについて

表3. 感想・今後の課題などのキーワードと人数

キーワード	人数
症状マネジメント	6
チームアプローチ(チーム医療)	5
カンファレンス	4
看護の振り返り	4
家族ケア	4
緩和ケアチーム	4
緩和ケアの特徴	3
QOL	3
今後の緩和ケアへのとりくみ方	3
エンゼルケア	3
ボランティア	3
ホスピスマインド	3
教育	2
コミュニケーション	2
いのちとの向き合い	1
患者の思いに寄り添う	1
倫理的問題	1
在宅ケア	1

4) アンケート結果4:「ホスピスケアとは？あなたの言葉で表現すると・・・」の内容

- ① 患者さんが安心して生きるためのケア
- ② 安心
- ③ 専門職、人として、患者・家族に寄り添うこと
- ④ その人らしさを支える
- ⑤ ホスピスマインドを持って患者と共にいること、そばに寄り添うこと
- ⑥ 相手の事を考え続ける事。そばに在る事。
- ⑦ 共に支えあう
- ⑧ 人と人のかかわりを大切にする思いと基礎看護の継続

これらのアンケート1)～4)の結果から、研修目標1)～4)は達成できたと考える。

2. 当施設の受け入れについての評価

1) 研修運営について

表4. 研修運営について 単位:人 ()内は%

		大変良い	良い	まあまあ	不十分
1	研修プログラム	5(62.5)	3(37.5)	0(0)	0(0)
2	受け入れ体制	3(37.5)	5(62.5)	0(0)	0(0)
3	指導体制	5(62.5)	2(25.0)	1(12.5)	0(0)

(1) 研修プログラムについて

研修生の評価は、「大変良い」が 62.5%、「良い」が 37.5%であった。「まあまあ」・「不十分」と感じている研修生はいなかった。

意見・感想として、①興味深い講義が多くあり、ふりかえりができて勉強になった(4)、②希望を細かく聞いてもらえた、③ボランティア活動や訪問看護の同行など普段できない体験ができた(2)、④さまざまな看護師とかかわることができ学びが深かったと書かれていた。これらのことからプログラム内容は研修生が満足できる内容であったと評価する。

(2) 受け入れ体制について

研修生の評価は「大変良い」が 37.5%、「良い」が 62.5%であった。「まあまあ」・「不十分」と感じている研修生はいなかった。

意見や感想として、①欠員がありスタッフが少ない中でも色々と話が聞け、かかわりを学ばせてもらった(2)、②毎日指導者についてもらえた、③できる範囲で実習の目標が達成できるように配慮してもらえた、④宿泊施設など、快適に研修ができるように配慮されていた(2)などが書かれていた。これらのことからプログラム内容は研修生が満足できる内容であったと評価する。

(3) 指導体制について

研修生の評価は「大変良い」が 62.5%、「良い」が 25.0%、「まあまあ」が 12.5%であり、「不十分」と感じている研修生はいなかった。

意見や感想として、①研修生の目標や希望を取り入れてくれ、少しでも多く学べるように調整してもらえた、②タイムリーに疑問に答えてくれた、③スタッフがみんなが話しやすい感じが優しかった(2)、④マンパワー不足の中でも親切に気を使ってもらえた(3)などが書かれていた。「まあまあ」と評価した研修生は、忙しい時期と重なり、自分も積極的に質問ができなかったと書かれていた。

これらのことから個人差はあるが、プログラム内容は研修生が概ね満足できる内容であったと評価する。

2) 研修形態について

表5. 研修形態について (単位:人 ()内は%)

		大変良い	良い	まあまあ	不十分
1	研修前の対応	4(50.0)	4(50.0)	0(10.0)	0(0)
2	寮の生活環境面	4(57.1)	2(28.6)	1(14.3)	0(0)
3	実習設備・環境	2(25.0)	5(62.5)	0(0)	1(12.5)

(1) 研修前の対応について

研修生の評価は、「大変良い」が 50.0%、「良い」が 50.0%、「まあまあ」「不十分」と感じている研修生はいなかった。

意見や感想は、①実習前の資料が詳しく書かれており、実習のイメージが描けた(3)、②丁寧な対応により、安心して実習に入ることができた(2)、③寮の案内もしてもらえてありがたかった、などが書かれていた。

(2) 寮の生活環境面について

7名の研修生が寮を利用された。

研修生の評価は、「大変良い」が 57.1%、「良い」が 28.6%、「まあまあ」が 14.3%であった。「不十分」と感じている研修生はいなかった。

意見・感想は、①物品もそろっておりきれいで快適だった(6)、②プリンターもあり、記録・提出物への不安が軽減した、③インターネットが使えるといいなどが書かれていた。

(3) 実習設備・環境について(図書・記録をする部屋など)

研修生の評価は、「大変良い」が 25.0%、「良い」が 62.5%、「不十分」が 12.5%であった。

意見・感想は、①図書がたくさんそろっておりすぐに見ることができて良かった(3)、②各職種の講義もパワーポイントで行われ分かりやすかった。

今後も研修生が実習をしやすい環境を調整できるように新刊図書の購入などをしていきたい。

3. 総評

1) 研修の内容は現状で概ね良いと評価できる。

2) 来年度の課題

研修生が満足できる実習ができるように、オリエンテーションやミーティングなどで調整を行っていく